

## わが図書館のここに注目!!

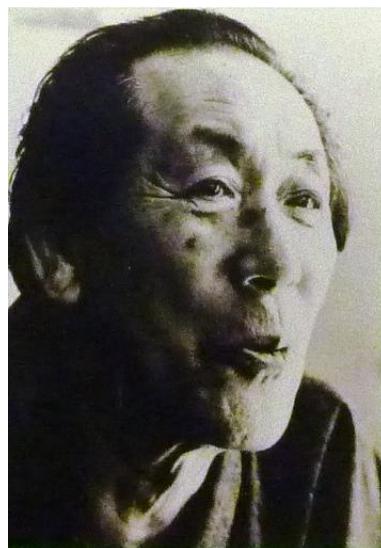
～鹿児島県立図書館～

2025年は、「椋鳩十生誕120周年」の年です。

今年は、鹿児島県の読書振興に多くの功績を残した、児童文学作家であり県立図書館元館長の椋鳩十（本名：久保田彦穂）氏の、生誕120周年に当たります。

椋鳩十氏は、1905年1月22日に、長野県下伊那郡喬木村で生まれ、1930年に、法政大学を卒業して、鹿児島県熊毛郡中種子高等小学校に勤務します。

その後、加治木高等女学校国語教師を経て、1947年から19年間務めた鹿児島県立図書館長時代には、第二次世界大戦で崩壊した図書館機能の再建のため、市町村図書館と共同運営を行い、市町村図書館を設置できない市町村には図書館を設置して県立図書館が支援するという、のちの図書館ネットワークの原型を構築しました（図書館学において「鹿児島方式」と呼ばれる。）。



【椋鳩十 肖像写真】

また、1958年に島尾敏雄氏を館長とした奄美分館（現在の鹿児島県立奄美図書館）を設置し、1960年には読書運動である『母と子の二十分間読書』運動を推進しました。

1967年から1978年までは鹿児島女子短期大学教授を務め、1976年には勲四等旭日小綬章を受章し、1987年、82歳で亡くなりました。

児童文学作家としては、『大造じいさんとガン』、『片耳の大シカ』、『孤島の野犬』、『マヤの一生』など数々の作品を執筆しました。

当館においては、2025年を椋鳩十生誕120周年の記念の年とし、椋鳩十氏の魅力を県内外に伝え、それらを次代につなぐために、以下のような記念事業を計画しております。ぜひ、県立図書館にお越しください。

- ・6/29(日) 「親子読書研修会椋鳩十生誕120周年記念大会」
- ・9/18(木)～10/23(木) 企画展示『図書館長 椋鳩十』
- ・12/9(火)～1/14(水) 企画展示『親子読書生みの親 椋鳩十』
- ・12/14(日) 椋鳩十生誕120周年記念県図書ほっとフェス



### 椋鳩十コーナー

県立図書館では、児童文化室内に「椋鳩十コーナー」を設置し、椋氏の著書をそろえています。

椋氏は、『大造じいさんとガン』など、動物を主人公とした多くの作品を執筆しました。



### 椋鳩十文学碑

県立図書館の敷地内にある椋鳩十氏の功績をたたえた文学碑です。昭和63年6月に、椋鳩十文学碑建立委員会から当館へ寄贈されました。文学碑には、「感動は人生の窓を開く」と刻まれています。

### 追放図書について

皆さんは追放図書を御存じでしょうか。

追放図書とは、県立図書館が所蔵している、戦争中に出版された軍国主義的な図書のことです。

この追放図書は、戦後進駐軍によって焼き払えと命令が出ていました。

しかし、当時の椋鳩十（久保田彦穂）館長は「公共図書館は、国民が調査・研究し、知り、考えることを目的としているものである。（中略）将来どのようにしていったらよいかを知るためにも、戦時中に出版されたものを研究することが大事だから、保存するのだ。」と進駐軍の幹部を説得し、これらの本は焼却から免れることができました。

県立図書館では、椋（久保田）館長が守った約800冊の追放図書が保管されており、貸出もできます。

